

(安倉コミュニティ歴史散策)

伊丹中野周辺の歴史と文化財

直宮 憲一

新田中野村先駆者顕彰碑

浅野孫左衛門によって開拓された新田中野村は、貞享3年（1686）から武蔵国・忍藩阿部氏領となり、その支配が130年に及んだ。藩はこの地に陣屋を設け、稲荷社を祀ったと伝えられる。

中野稲荷神社・忍藩陣屋跡地

忍藩中野屋敷があったところで、樹齢約400年のイヌマキがあります。この木は高さが15m、胸高周囲3.1m、枝張り12mの兵庫県最大の大樹で、平成13年に兵庫県の指定天然記念物になっています。

中野・素盞鳴神社

江戸初期に浅野孫左衛門がこの地域を開発した際に、社殿を建て牛頭天王を祭祀した。阪神淡路大震災で倒壊したが再建された。浅野霊神社、稲荷社、金比羅社、天神社、愛宕社が合祀されている。入り口に「右大坂 左小浜」と書かれた台石もある。日露戦争の慰霊碑も境内にある。

鴻池清酒発祥の地と鴻池稲荷祠碑

鴻池は山中鹿之介の長男・幸元が伯父の助けを受け、武士をやめて酒造業を始めたところ、当時濁り酒が一般的であったのを、主人と意見の食い違いから使用人が酒樽に灰をぶちまけて逃散したが、翌日、酒樽を見ると、清酒ができていた。これをもとに丹醸と呼ばれる清酒ができ、これを江戸送りしたところ「下り酒」として人気を博し、大評判となった。その清酒発祥の地が伊丹市鴻池にある。

鴻池家の由来を記した碑は、初代・幸元から7代目の長男・元斬の眺望で江戸の儒学者・中井積徳（履軒）によって作成された。中国古代の「布貨」の形をした砂岩製で、亀趺（亀形台石）上に立てられている。作成年代は天明4年（1784）ごろか。鴻池家は山中鹿之助の子孫で、初代・幸元は元服し、新右衛門（新六）と改めた。この新六の七男・新右衛門が2代目を継ぎ、八男・善右衛門正成が寛永16年（1639）、大坂今橋の鴻池本家の祖となった。これらの繁栄は新六の酒造業によるもので、慶長5年（1600）濁り酒から清酒（双白清酒）をつくり、これを記念し邸内に稲荷祠を作った。宝暦13年（1763）年の台風で稲荷祠が潰れたため、20年後の天明4年に復興された際に、この石碑を建てたと記される。この石碑は幕末に持ち去られて不明になっていたが、明治年間に大阪南区八幡筋の骨董店の店先に出ていたものを鴻池家買取り、瓦町の別邸内に移していたが、昭和初期に当地に移築したものです。平成3年に保存のための処置が行われ、伊丹市の史跡になったが、下部の一部は欠損し、この碑文全文は小浜・山中家旧蔵の拓本にのこされており、宝塚市立小浜宿資料館に収められている。

鴻池神社

祭神は勾大兄（まがりのおおえ）安閑天皇、側神は誉田別命（応神天皇）。古くは「安閑天皇社」と呼ばれ、江戸時代には「蔵王権現」と称していた。慈眼寺にあった八幡社を合祀し、「鴻池神社」となった。本殿は17世紀初頭に建てられた一間社流造柿葺で県指定重要文化財に指定されている。山車祭りも壮大である。

力士塚

鴻池墓地公園の入り口に地元出身の力士「獅子渡藤次郎」の塚があります。尼崎藩の殿様の御前試合で藩のお抱え力士を投げ飛ばしただけでなく、地元の寺社仏閣や橋梁の修理のため勸進相撲を催し、資金集めに貢献したといわれています。

僊園山・慈眼寺

寺伝では赤松則村（円心1277～1350）の祈祷所であったという。もとは修験道であったが、後に真言宗から曹洞宗の寺となった。正保3年（1646）に大広寺から永昌が住職となり、寺名を慈眼寺とした。『摂津名所図会』にも「鎮守八幡宮 神像束帯弓箭を携え馬上の尊体を安ず」と記されている。平成7年の阪神淡路大震災で罹災したが復興した。本尊は十一面観音菩薩で、慶派の作とされる。鎌倉時代初期の建久6年（1195）作で、像高52.4cm、檜の割矧作りで、禅定印を示す。昭和63年の調査で体内から墨書が見つかり、平成2年に国の重要文化財に指定された。

法雄山・常休禅寺

寛永7年（1630）に浅野孫左衛門ら8人によって寛永5年（1628）から10年をかけ122haが開墾されて新田中野村が成立した。灌漑用水として5箇所池もつくっている。この「孫左衛門池」は昭和38年に埋め立てられ県営中野住宅等になっている。尼崎藩小浜奉行・伊東祐之は当村に寺院を作ろうと考え、天和3年（1683）に宇治の万福寺の明道和上によって開山された。このとき伊東は祭田十石を寄進している。貞享3年（1686）新田中野村は忍藩・阿部豊後守忠明（9万石）の領地となり、祭米年40石の寄進を受け忍藩の菩提寺となった。万福寺の僧が有馬へ行く際には宿舎とした。文政6年（1823）阿部氏は奥州白河へ転封され、当村も返上された。その後一時無住となったが再度復活した。本堂と鐘楼は阪神淡路大震災で倒壊したが、平成9年に復興した。本尊は木造釈迦如来坐像で境内に初代の庄屋・浅野孫左衛門の墓もある。

安倉南道標

有馬街道沿いの伊丹・大鹿から安倉に向けて入る天王寺川沿いの中山寺近道の分岐点にある。「享保二一丙辰（1736）年三月・願主大坂住人・右中山くアんおん道・左小者まさん多阿り満たしま」とある。砂岩製で、この少し先には県下最古の寛文8年（1668）銘の姥ヶ茶屋の三叉路道標もある。